

島根県立
古代出雲歴史博物館
NEWS

2012.MAY vol.22



CONTENTS

2・3 特別展「石見銀山」特集

4 古事記1300年

5 新館長挨拶

6 博物館だより「神話博しまね」／まいぶんセンター通信

7 古代文化センターだより

8 れきはくごよみ



世界遺産

登録5周年記念

特別展

石見銀山

その繁栄と文化の継承

平成24年 6月1日(金)～7月8日(日)

写真：左上から時計回りに／オルテリウス日本図ティセラ型／戒一文字丁銀／御取納丁銀／文禄石州丁銀

同時開催 特別展

会期：平成24年6月1日(金)～7月8日(日)

原画展 水木しげると出雲



石見銀山 — その繁栄と文化の継承 —

大航海時代の交易の一端を担い、海外からもたらされた当時最先端の鉱山技術を国内に広めた石見銀山。「石見銀山遺跡とその文化的景観」は、近代化の波にのみ込まれることなく、遺構や景観が良好に保全されてきたことも高く評価され、2007（平成19）年7月、世界遺産に登録されました。

世界に名だたる銀鉱山として繁栄した石見銀山の歴史をあらためて振り返るとともに、登録後、今日にいたるまでの調査研究によって得られた成果を紹介し、さらには景観の保全、地域文化継承の新たな取り組みを紹介します。

【観覧料】常設展観覧料でご覧いただけます。

I 世界遺産 石見銀山

海外から最先端の鉱山技術を取り入れ、大航海時代の交易のなかで世界に影響を与えた「石州銀」と石見銀山の繁栄のすがたを、所蔵の古丁銀コレクションや地図・絵画資料などからたどります。

主な展示品

- 銀山旧記
- ティセラ 日本図
- 文禄石州丁銀
- 戎^{えびす}一文字丁銀



文禄石州丁銀 古代出雲歴史博物館蔵

II 繁栄の維持と継承

江戸初期に銀産出のピークをむかえ、その減少後も操業が維持された石見銀山が、地域に果たした役割や、遺跡と景観保全、地域文化の継承発展に取り組む人々のすがたを紹介します。

主な展示品

- 元和年間石見国絵図
(島根県指定文化財)
- 狩野重信筆絵馬
(島根県指定文化財)
- 徳川家康拝領御陣扇
(大田市指定文化財)
- 島根県観光鳥瞰図



徳川家康拝領御陣扇
大田市指定文化財

石見銀山 新たな魅力

古代出雲歴史博物館 学芸員 矢野 健太郎

今年の7月2日で石見銀山は世界遺産登録から5年という節目を迎えます。世界遺産登録以降も石見銀山の調査研究は絶え間なく続けられてきました。また、登録への大きな要因ともなった「自然環境」や「文化的景観」の保全については、地域の人々によって新たな取り組みも生まれてきています。今回の展覧会では、今日にいたるまでの考古と文献の両分野における調査研究の成果と、地域の人々の活動をとおして、石見銀山の新たな魅力を伝えることができると考えています。

近年の発掘調査の成果のひとつとして、近代の石見銀山の状況をうかがい知ることのできる考古資料が数多く発見されています。銀鉱山としては終焉期にあたる明治期の石見銀山は、大阪の「藤田組」という企業によって経営がなされました。これまであまり知られてこなかった「藤田組」の鉱山経営を、数々の遺物から紹介したいと思えます。

また、このほかにも新発見の資料が展示される予定です。5年目という節目の年に、石見銀山の繁栄の歴史を振り返るとともに、その新たな魅力を再発見していただければと思います。みなさまのご来館をお待ちしております。

原画展

同時開催 特別展

水木しげると出雲

会期 平成24年6月1日(金)～7月8日(日)

今年は、出雲を舞台とした神話を多く伝える「古事記」が編纂されてから1300年にあたります。当館ではこれを記念して、水木しげる氏が、出雲を題材とし、舞台とした数々の作品の原画30点を中心に、氏が撮影した写真、関連する資料などを一堂に展示します。

水木氏の長年にわたる「出雲へのこだわり」の世界をどうぞお楽しみください。

【観覧料】常設展観覧料でご覧いただけます。

ギャラリー トーク

特別展担当学芸員による
展示品解説です。

- 6月2日(土)、16日(土)
30日(土)、7月8日(日)
11:00～/14:00～(1日2回)
- 事前申し込み不要
- 常設展観覧料もしくは、
パスポートが必要です。

特集展講演会

記者の目でたどる石見銀山世界遺産登録の道

■6月9日(土) 13:30～15:30 ■講師/引野道生氏(山陰中央新報社)

北前船で栄えた温泉津

■6月23日(土) 13:30～15:30 ■講師/加藤貞仁氏(北前船研究家
元読売新聞人事部次長)

代官川崎平右衛門 一名主の才覚を幕領経営に

■7月7日(土) 13:30～15:30 ■講師/馬場治子氏(府中市郷土の森博物館学芸員)

【場所】
古代出雲歴史博物館
講義室

【定員】100名

■事前の申し込みが
必要です。電話・
FAX・ホームページ
の参加フォームに
て受付。定員となり
次第、締切とさせて
いただきます。

銀粘土でつくろう！ シルバーアクセサリー

あなただけのシルバーアクセサリーを作ってみませんか。

■6月10日(日) 10:30～/13:30～/15:00～
(1日3回・所要時間およそ90分)

【場所】体験工房 【定員】各回20名

- 事前の申し込みが必要です。電話・FAX・ホームページの参加
フォームにて受付。定員となり次第、締切とさせていただきます。
- 参加費1,000円が必要です。

体験イベント

丁銀ストラップ作り体験

世界遺産センターで開催されている体
験イベントを特別開催!!
旅の記念やプレゼントにオリジナルの
丁銀ストラップはどうでしょう。

■6月24日(日) 10:00～15:30
(所要時間およそ30分)

【場所】エントランスホール

- 事前申し込み不要
- 参加費500円が必要です。



特別展連携施設紹介

石見銀山世界遺産センター

世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の価値や魅力、全体像
を分かりやすく紹介する学習施設です。

400台分の駐車場を備え、路線バスに乗り換えて大森の町並み保存
地区に向かう「パーク&ライド」の拠点施設でもあります。



展示室には、17世紀初めの「吹屋」(製錬所)を当時の原寸大で再現しています。
その建物内に配置した人形とオリジナル映像により、銀の生産量を飛躍的
に高めた「灰吹法」を詳しく解説しており、鉱石から銀を取り出すまでの製錬の
工程がよくわかります。

また、銀山最大級の坑道「大久保間歩」の坑内を再現した模型により、江戸
時代と明治時代との採掘跡の違いがじっくり観察できるようになっています。壁
面の質感は本物と見間違えるほどで、坑内の映
像とあわせてご覧いただくと、本当に間歩の中
に入ったかのような感覚が味わえます。

この他にも、銀山最盛期の鉱山町を再現した模型や、毛利元就が朝廷に献納した
「御取納丁銀」の拡大模型、CGを駆使した各種映像など様々な展示によって遺跡の
全容を深く理解していただけるようになっており、遺跡や町並み等の現地を訪れる
前の事前学習に最適です。石見銀山へお越しの際には、ぜひお立ち寄りください!



◎毎週水曜・木曜は「丁銀づくり体験」の日

石見銀山世界遺産センターでは、低合金やプラ板をつかっ
た「丁銀づくり体験」をしています。銀山にちなんだオリジナ
ルキーホルダーづくりはいかがでしょう?

【日時】毎週水曜日・木曜日 13:00～16:00

【場所】石見銀山世界遺産センター エントランスホール
※詳細は石見銀山世界遺産センターホームページをご覧ください。



【開館時間】8:30～17:30

【観覧時間】9:00～17:00(最終受付16:30)

※3月～11月は30分延長

【休館日】毎月最終火曜日・年末年始

【観覧料】大人:300円 小中生:150円

団体(20名以上) 大人:250円 小中生:100円

◎世界遺産登録5周年記念 7月2日(月) 展示室観覧料無料

世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」は今年(平成24年)7月に登録5周年と
いう節目を迎えます。そこで石見銀山世界遺産センターでも様々なイベントを企画
しています。ぜひ遊びに来てください!

【お問合せ】石見銀山世界遺産センター

〒694-0305 大田市大森町イ1597-3

TEL:0854-89-0183 FAX:0854-89-0089

http://ginzan.city.ohda.lg.jp/

「大出雲展」只今準備中

古代出雲歴史博物館 学芸グループ課長 野克之

今年7月28日から9月9日まで京都国立博物館を会場に、出雲ゆかりの名品を集めて「大出雲展」が開催されます。「大出雲展」を一言で説明すると「古代出雲を紹介する出開帳」と言ったところでしょうか。

古代出雲といえはすぐに神社や神話の世界が思い浮かぶと思います。確かにこのイメージは間違いではないのですが、実はかつて日本において神と仏は混淆していました。つまり日本固有の神の信仰と外来の仏教信仰とが融合していたのです。たとえば神宮寺と言って神社を守護するお寺があったり、お寺の境内に神社を建てたりしていました。出雲でも例外ではありません。神仏混淆だから神々の世界だけ紹介しても不十分です。そこで仏像や仏画などいわゆる仏教美術も数多く展示します。ここでは、初めて展覧会に出品される2体の仏像を紹介します。

まずは松江市枕木町華蔵寺の仏像です。現在は臨済宗南禅寺派ですが、かつては天台宗の寺院でした。標高456mの枕木山の頂上に位置し、境内の展望台からは大山や中海が一望できるすばらしい景観にめぐまれた古刹です。

ここには重要文化財の木造薬師如来坐像が安置されています。「大出雲展」にこの薬師如来像を出品させていただくことになりました。この像実は長年秘仏だったのです。前回のご開帳は平成13年5月でした。私もこの時2回お寺を訪ね像を拝んでいますが、その後また秘仏として人の目に触れなくなりました。



重要文化財 木造薬師如来坐像 華蔵寺



重要文化財 木造薬師如来坐像(頭部) 華蔵寺

重要文化財ですが、何しろ長年秘仏でしたので像の情報があまりありません。ご住職様のご厚意で特別に像の調査をさせていただきました。その結果いままでよくわからなかった像の構造など色々明らかになりました。詳しくは展覧会の図録などに書く予定ですが、制作年代は今まで言われていた年代よりほんのちょっとですが古いようです。

ご開帳の時には薄暗い厨子に入っていましたのでよくわからなかったのですが、今回明るいところで見ると目鼻口の彫りがキリッとしていて、都会的な像で中央の仏師が制作したことは間違いありません。

次に紹介するのは奥出雲町岩屋寺の旧本尊木造十一面観音坐像です。岩屋寺は真言宗の寺院で、創建は古く、武士や庶民それに修験者の信仰も集めるなど勢力を誇っていて、横田八幡宮の神宮寺でもありました。しかし、永正年間（16世紀初頭）に尼子の兵火で焼かれてしまいます。しかし快円という僧が



旧岩屋寺本尊 木造十一面観音坐像

天文年間（16世紀半ば）に復興します。本像は嘉元4年（1306）に鏡信という恐らく中央の仏師によって岩屋寺の本尊として制作されたことが分かっていて、快円は戦乱で傷んだ本像を修理しています。

しかし戦後、諸事情により岩屋寺は境内の様々な仏像を手放します。本像は現在関西の個人の方の所有となっていて、その方のご厚意により展示ができません。先日調査させていただきましたが、坐像で約1メートルと大きく、しかも十一面観音では珍しい四臂（腕が4本）の像で、上品な瓜実顔の像でした。

岩屋寺でこの像と一緒に安置されていた四天王像は愛知県のお寺へ、仁王門を守っていた仁王像はアムステルダム国立美術館へ行っていました。仁王様は無理ですが、十一面観音様と四天王様には一度島根県に戻ってきてほしいものです。

清々しい杵築の地に赴任して

古代出雲歴史博物館 館長 玉串和代



「島根の魅力は何でしょう？」と問われたら、皆さん何を思い浮かべますか？

豊かな自然、海山の幸、歴史や伝統文化、地域の絆など、さまざまな答えが返ってくるでしょう。

確かにどれも、紛れもない島根の魅力です。しかし、他の地域と差別化できるほどのものとなると、私はやはり、ラフカディオ・ハーンをして「神々の国の首都」と言わしめたように、神代の時代から連綿と続く歴史や伝統文化、さらにはそれを育んできた風土であると思っています。

今県では、古事記編纂1300年や出雲大社の大遷宮を機に、そうした島根の魅力を存分に活用し、観光をはじめとする産業振興を図り、県民の皆さんが将来にわたって地域への誇りと自信を持つことを目的に、県あげて「神々の国しまね」プロジェクトを展開しています。

一方、古代出雲歴史博物館のミッションは、古代出雲に象徴される島根の特色ある歴史・文化を調査研究により深め、県内外に広めることにより、県の発展につなげることにあります。

まさに当博物館のミッションは、このプロジェクトが目指すところと軌を同じくするものです。いよいよ7月21日には博物館前特設会場で「神話博しまね」がスタートしますが、当館でもおもてなしにさらに磨きをかけて、全国からのお客様をお迎えしたいと思います。また、初の県外巡回展となる京都国立博物館での「大出雲展」(7月28日～9月9日)や、東京国立博物館での「出雲—聖地の至宝—」(10月10日～11月25日)は、島根の歴史・文化と当館を全国にアピールする絶好の機会です。そこで得られたノウハウやネットワークを、今後の飛躍の糧としたいと考えています。

館長に就任してわずかな期間ではありますが、得も言われぬ雰囲気をもった清々しい杵築の地で働く喜びを、毎日感じています。また、「神々の国しまね」というビッグ・プロジェクトにより、県内外の古代出雲の歴史・文化に対する認識は徐々に深まりつつあり、これまで博物館とは縁遠かった分野の方々からも、いくつかのご提案やご意見、さらには連携の打診をいただき、大変嬉しく思っています。

当館は、開館以来5年を経過したところではありますが、この間、職員はもとよりボランティアスタッフの皆様など関係者の努力の成果を大切にしながら、幅広い分野の方々の声に耳を傾け、一人でも多くの方に訪れていただき、また来たいと思える博物館を目指してまいります。今後とも応援をよろしくお願いいたします。

[歴博からのお知らせ]

「公開承認施設」になりました

このたび、古代出雲歴史博物館は「公開承認施設」に認定されました。「公開承認施設」とは、国宝や重要文化財などが適切な施設で公開されることの促進を目的とした制度で、公開に関する事前手続きの簡素化や経費の支給などにより、博物館の展示活動の活性化が図られます。

「公開承認施設」になるには、5カ年以上の国指定文化財の展示実績が必要で、現在、国内の4000を超える博物館のなか、県内では当館を含めて3館、全国でもおよそ120館程度が「公開承認施設」となっています。今後の当館の展覧会での名品との出会いにご期待ください。

◆公開承認施設とは

- ① 国宝・重要文化財などの公開が、文化財の保存上適切な施設で促進されることを目的としてつくられた制度です。
- ② 企画展における重要文化財等の公開手続きが簡素化されます。
- ③ 公開にともなう経費の一部(作品の応急修理費、梱包・輸送費など)を文化庁が負担する重要文化財等公開促進事業に申請することができます。
- ④ 所有者にとっては大切な所有品を信頼できる施設と専門家にゆだねて安全な条件下で公開できるというメリットがあります。

いよいよはじまる「神話博しまね」

◎「しまね」の魅力へいざなう

今年はいよいよ古事記編さんから1300年の記念の年です。神々の国しまね実行委員会では、全国からたくさんの方々へ「島根」に訪ねただけのよう、「神々の国しまね」プロジェクトを実施しています。

「神話博しまね」はそのシンボリック事業であり、7月21日(土)～11月11日(日)まで114日間、出雲大社周辺を主会場エリアとして開催します。

「神話博しまね」は、「しまね」の神話や万葉など島根の多彩な魅力を伝える「エントランスゾーン」として、県内各地の訪ね歩きをいざないます。そのため、「神話博しまね」主会場エリアの魅力づくりや、県内各地をめぐるバスツアーの運行、観光ガイドによる「まち歩きコース」の充実など、お客様を温かくお迎えする「おもてなし」の準備を進めています。



◎神話の魅力を体感！！

主会場エリアの中心となるのは、出雲大社の東側、古代出雲歴史博物館敷地内に設ける特設会場です。ここでは、神話の物語を迫力のエンターテインメントで再現する「神話映像館」、神楽や民謡など県内各地の“伝統芸能”や県民による「おもてなし」ステージを観ていただく「しまね魅力発信ステージ」など、お越しいただいたお客様に「神話」の物語と「しまね」の魅力をご紹介します。

また、「神話博しまね」の開催期間中は、出雲大社周辺各地でも「神話フィギュア展示」や「古川誠写真展『出雲の神々』」など様々な催しが開催されます。ぜひ、神話の国“出雲”からはじまる「神々と出会う旅」を体感してください。

ここでは、「神話博しまね」の魅力を伝えきれません。この続きは、『神々の国しまね～古事記1300年～公式ガイドブック』、『神話博しまね 公式ウェブサイト (<http://www.shinwahaku.jp/>)』をご覧ください。



「授業ですぐ使えるワークシート」

～県内の遺跡の様子がよくわかります～

島根県埋蔵文化財調査センターでは、学習の導入などで児童・生徒の興味や関心を高め、島根県の歴史や文化財の特色を伝えることのできる教材として、「授業ですぐ使えるワークシート」を作りました。旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良時代、室町時代、江戸時代、近現代(昭和)の時代ごとに全21種類あり、下記ホームページに掲載しています。



ワークシートを使った学習のようす

「授業ですぐ使えるワークシート」には、以下のような特徴があります。

- ①画像やグラフなどのデータは、島根県内遺跡の発掘調査や研究の成果を中心に掲載しており、オリジナル性が高いものです。
- ②歴史の授業やふるさと学習で手軽に使えるように、質問は容易にしています。
- ③各ワークシートは、子どもたちに配布するページと、教師が子どもたちに指導するための解説や補完的な画像のページがセットになっています。
- ④各ワークシートの解答例と、ワークシートを使った授業の展開例を示した学習指導案もホームページに掲載しています。

実際にこのワークシートを小学校の授業で使っていただいた時には、授業の初めから終わりまで子どもが意欲的に学習し、地域素材が持つ魅力の大きさが感じられました。今後も学校の先生方からのご意見やご感想を元に、よりわかりやすく幅広い地域・時代のワークシートを作成していく予定です。

<http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/>



どんどん発表する子どもたち

石見の神楽衣装について

テーマ研究 「石見神楽と地域創造」から

古代文化センター 藤原 宏夫

本県西部に伝えられる石見神楽は、神話や伝説などの物語にさまざまな演出をこらした娯楽性の高い舞が人気で、現在でも多くの人々に愛されています。近年では、その人気の高さゆえ町づくりや観光振興の方面からも注目を集めており、多くの地域で神楽を用いたさまざまな企画が催されています。

島根県古代文化センターでは、石見神楽への関心が高まるなかにおいて、その歴史や現状を調査することを目的に、平成22年度から3ヶ年度にわたって、テーマ研究「石見神楽と地域創造」を実施しています。本テーマ研究で調査する内容は、①石見各地に伝わる面や衣装などの道具類、また台本や文書などの資料調査、②石見神楽の県外への広がり調査、③創作神楽や子供神楽など現代の神楽についての調査など多岐にわたります。

この小稿では、テーマ研究で得られた成果から、神楽衣装についてお話ししたいと思います。

そもそも神楽衣装は、それが作られた時期を特定することが難しいものです。古文書であれば、たいていそれを書いた人物の名とともに年号が記されていますが、衣装にそうした情報が記されることは基本的にありません。石見神楽の衣装に限って言えば、昭和以降になると豪華な刺繍衣装（写真1）が使用されるようになることや、購入時期をご存じの神楽団員もいらっしゃることから、おおよその時期を特定することができます。



【写真1】昭和期の神楽衣装(三谷神楽団)

ところが昭和以前となるとそうはいきません。そもそも昭和以前に作られたとみられる衣装はあまり残っていませんし、残っていてもご存じの方が少ないからです。



【写真2】明治期の神楽衣装(三谷神楽団)

このたびの調査において、私たちは邑智郡川本町の三谷神楽団を訪ねました。古い衣装を多く残しておられましたが、そのなかで注目したのが写真2の衣装です。非常に分かりにくいのですが、よく見ると衿の部分に「湯谷村 舞子中」と書かれていました。湯谷村とは、三俣村と合併して三谷村となる明治22年まで存在した村のことで、さらに神楽団の沿革によれば、三谷神楽団は明治5年頃に「湯谷舞子中」として発足し、その当時手製の衣装を使用していたことが分かっています。こうした事実を合わせて考えてみると、この衣装は明治5年から同22年のあいだに作られたと判断できます。明治初期に作られたという証拠が残る衣装として、これは石見神楽研究にとって第一級の資料だといえるでしょう。

この調査によって、明治初期の神楽衣装がどのようなものだったか、その一端が明らかになりました。この衣装をひとつの基準としてみると、他地域に伝わる古い神楽衣装の製作年代を考えることができますし、ひいては石見神楽の衣装がどのような変遷をたどってきたかを明らかにすることができるのではないかと考えています。

パスポート会員の皆様へ

古代出雲歴史博物館のミュージアムカフェは4月1日より「maru café」として新しくオープンしました。以前より来館ポイント5ポイントでカフェ500円券に交換しておりましたが、4月1日より「maru café」で使えるドリンク券と交換させていただきます。

博物館へお越しの際は、新しく生まれ変わったミュージアムカフェ「maru café」でゆったりとした時間をお過ごしください。

※お手持ちの「阿礼」500円券は引き続き「maru café」でもご利用いただけます。



(見本)

企画展 スケジュール 2012-2013

特別展

世界遺産登録5周年 **石見銀山** —その繁栄と文化の継承—

◎会期／平成24年6月1日(金)～7月8日(日) 会期中の休館日 6/19(火)

時を越える輝き、石見銀山の繁栄と継承。5年目の今年、その継承と発展の足跡をたどります。また国内有数の丁銀コレクションを一堂にお披露目、丁銀にかくれた恵比寿と大黒を探してみませんか。
【同時開催】水木しげる原画展



神話博しまね特別展

写真展 「八雲立つ出雲」

～植田正治・上田正昭が歩いた『神々のふるさと』～

◎会期／平成24年7月21日(土)～10月8日(月) 会期中の休館日 8/21(火)・9/18(火)

写真家の故植田正治と古代史研究の上田正昭。いずれも日本を代表する二人のウエダが半世紀前出雲を歩き、成した「カメラ紀行 出雲の神話」。当時の写真を再現し、出雲の魅力に迫ります。

よみがえる はじまりの物語
JAPAN WITH KAMURA IN SHIMANE
神話博しまね



企画展

「戦国大名尼子氏の興亡」

◎会期／平成24年10月26日(金)～12月24日(月) 会期中の休館日 11/20(火)・12/18(火)

出雲の人々の心をとらえてやまない戦国大名の尼子氏の興亡史に、経久の人物像と卓抜した政治指導力、勝久と鹿介の尼子再興戦などから迫ります！

企画展

匠の技 ～弥生木製品から出雲大社まで～

◎会期／平成25年1月18日(金)～3月17日(日) 会期中の休館日 2/19(火)

日本で育まれた豊かな木の文化。その伝統は、出雲大社の遷宮をはじめ、現在にも綿々と引き継がれます。



巡回展

古事記1300年・出雲大社大遷宮特別企画

古代出雲の至宝—県外巡回特別博覧会

◆京都国立博物館 大出雲展

◎会期／平成24年7月28日(土)～9月9日(日)

出雲の古社、そして関わりの深い古寺の宝物と、出雲の重要遺跡から出土した品々を一堂に紹介する展覧会です。事前調査による新発見も盛り込んで、出雲神話と出雲大社の成り立ち、古代・中世の出雲人がはぐくんだ神と仏への祈りのかたちを展望します。



◆東京国立博物館 出雲—聖地の至宝—

◎会期／平成24年10月10日(水)～11月25日(日)

出雲大社の壮大な神殿を彷彿とさせる宇豆柱やいにしへの姿を今に伝える絵図・神宝、また荒神谷・加茂岩倉遺跡出土の国宝青銅器など、神々の国出雲、聖地出雲のイメージの中心となる、選りすぐりの文化財を展示します。



※出雲大社宇豆柱は、5月～12月の間京都展・東京展に特別出展されます。古代出雲歴史博物館中央ロビーでは、出雲大社関連の展示を予定しています。

平成25年度企画展 予告

平成の大遷宮 出雲大社展

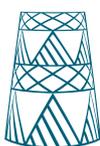
◎会期／平成25年4月12日(金)～6月16日(日)

約60年ぶりの大遷宮が進められている出雲大社では、平成25年5月に本殿遷座祭が執り行われます。人々の心のよりどころとなってきた出雲大社。古来、人々はなぜこの地に大きな神殿を造営し続けたのでしょうか。本展は、出雲大社や遷宮の謎に迫ります。

博物館の大祭礼 「皐月れきはくまつり」 5/12(土)～5/16(水)

5周年企画展クイズラリー	5/12(土)～16(水)	9:00～17:30	企画展示室でクイズに答えてグッズをゲット！ ※企画展観覧料が必要
出張博物館	5/12(土)・13(日)	10:00～16:00	【場所】エントランステラス 石見銀山遺産センター、グラントワ、サヒメル、ゴビウス、弥生の森、荒神谷が、れきはくに大集合！ いろいろ体験できるよ！
勾玉体験楽	5/12(土) 13(日)	10:00～16:00 10:00～15:00	【場所】体験工房横 【料金】300円 ※各日先着50個
古代衣装・神楽衣装体験楽	5/12(土)・13(日)	10:00～16:00	【場所】講義室 古代衣装を着て写真シールをもらおう！ ※無料
れきはくバックヤードツアー	5/12(土)・13(日) 10:00～/11:00～/13:00～/14:00～/15:00～		【受付】情報交流室 ※各回定員20名 博物館の裏側探検 学芸員がバックヤードをご案内 ※無料
●スペシャルイベント 【場所】エントランスホール			
①「古事記落語と落語ワークショップ」	5/12(土)	13:00～14:00	【講師】桂 三段 ●しごととしての落語家とは？ ●落語の基本的な所作を体験 ●創作落語「スサノヲ」 ※無料
②企画展テーマ音楽コンサート	5/13(日)	13:00～14:00	企画展テーマ曲3部作完結を記念して歌島夫妻によるコンサート ※無料

発行／平成24年5月



島根県立古代出雲歴史博物館
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350
URL : http://www.izm.ed.jp E-mail : contact@izm.ed.jp
開館時間 9:00～18:00(11月～2月は、9:00～17:00)



マスコットキャラクター 雲たくん



マスコットキャラクター 出雲ちゃん